

報告事項コ

企画展「鳥取画壇の祖 土方稻嶺 ー明月来タリテ相照ラスー」の開催
について

企画展「鳥取画壇の祖 土方稻嶺 ー明月来タリテ相照ラスー」の開催について、
別紙のとおり報告します。

平成30年9月10日

鳥取県教育委員会教育長 山 本 仁 志

ひじかたとうれい
「鳥取画壇の祖 土方稲嶺 —明月来タリテ相照ラス—」展 開催要項

1 展覧会趣旨

江戸時代後期に鳥取に生まれた土方稲嶺（1741～1807）は、江戸で宋紫石に学び、のちに円山応挙や伊藤若冲ら多くの画家がひしめく京都に活動の場を移し、晩年に鳥取藩絵師として召し抱えられ、鳥取と江戸を行き来しました。

紫石画と見紛うばかりの花鳥画のほか、南蘋派の画家には珍しく大画面構成を得意とした稲嶺は、多数の屏風のほか京都や和歌山・兵庫の寺社の襖絵を手がけています。また、西洋的な陰影を取り入れた人物図や水中表現には、稲嶺の真に迫ろうとする努力の痕跡がうかがわれ、その迫真的かつ奇妙な描写は、現代のわたしたちの眼にも大変新鮮に映ります。書を読み、作画にあたっては部屋を閉め切り香を焚いて臨んだという逸話や、「深林人不知明月来相照」といった遊印からもうかがえるように、文人気質であった稲嶺の作品には、彼の“ダンディズム”ともいうべき燻し銀のような奥深い味わいがあります。

鳥取画壇の祖といわれ、平成9（1997）年に当館にて特別展が開かれるなど地元を中心に顕彰されてきましたが、同展開催から20年以上経ち、さまざまな発見が見いだされ、今、稲嶺の再評価が必要な時期を迎えています。

本展では、稲嶺個人に焦点を当て名品を中心に紹介することで、稲嶺像の核に迫り、その真価を浮き彫りにします。“鳥取の画家”としてこれまで取り上げられることの少なかった画人ですが、江戸と京を主な活動場所としており、18世紀の画壇の広がりや奥深さを知る上でも、新知見が見出される可能性を秘めているといえるのではないのでしょうか。

2 出品作 掛軸 約100件、屏風・襖絵 約16件 等

3 作品拝借先

京都国立博物館、大阪市立美術館、島根県立美術館、千葉市美術館、府中市美術館、大和文華館、兵庫県祐徳寺、妙心寺塔頭（大法院）等

4 会 期 平成30（2018）年10月6日（土）～11月11日（日）
10月22日（月）のみ休館（36日間）

5 会 場 鳥取県立博物館（鳥取市東町2丁目124） 第1・2・3特別展示室、美術常設展示室

6 観覧料 一般800円（団体・前売・大学生・70歳以上 600円）
高校生以下の方、障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者、
学校教育活動での引率者は無料

7 主 催 「土方稲嶺展」実行委員会（鳥取県立博物館・山陰中央テレビジョン放送株式会社）

8 関連事業

- 特別講演会 I 10月13日（土）「稲嶺のいた京都」／講師＝狩野博幸氏（美術史家）
- 特別講演会 II 10月20日（土）「南蘋派絵師としての稲嶺の特異性について」／講師＝安村敏信氏（北斎館館長）
- スペシャルギャラリートーク 10月27日（土）「稲嶺の魅力を語る！」／解説＝金子信久氏（府中市美術館学芸員）、進行＝山下真由美（当館学芸員）／14時～15時／要観覧料／会場＝展示室
- ギャラリートーク ～担当学芸員による展示解説～10月6日（土）、11月3日（土）
- 体験型ミニレクチャー11月10日（土）「掛軸を巻いてみよう！」



鳥取県立博物館
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM



鳥取画壇の祖 *Torei HIJIKATA*

土方稻嶺

—明月来タリテ相照ラス— *A Retrospective*

稲嶺
土方
画壇

2018

10月6日[土]—11月11日[日] (10月22日[日]のみ休館)

開館時間:午前9時～午後5時 ○入館は閉館の30分前まで

〈観覧料〉一般800円 前売り・団体(20名以上)・大学生・70歳以上の方600円

※高校生以下/学校教育活動での引率者・障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者は無料

主催「土方稲嶺展」実行委員会(鳥取県立博物館・山陰中央テレビジョン放送株式会社) (協賛) ©日本通運 株式会社 モリックスジエム 株式会社 吉備館白鶴製 三和商事株式会社

土方稲嶺

鳥取画壇の祖 Torii HIYIKATA A Retrospective

「明月来タリテ相照ラス」

江戸時代中期に鳥取に生まれた土方稲嶺(一七四一〜一八〇七)。彼は鳥取藩の家老である荒尾家の家臣の家に生まれましたが、職を辞し、江戸に出て画を宋紫石に学びました。のちに円山応挙や伊藤若冲ら多くの画家がひしめく京都に活動の場を移し、南蘋派の画家として活躍。晩年には鳥取藩絵師として召し抱えられ、鳥取と江戸を行き来しながら鳥取藩の画事に携わりました。細緻で濃密な花鳥画はもとより、大画面構成を得意とした稲嶺は、多数の屏風のほか京都や和歌山、兵庫の寺社の襖絵を手がけています。また、西洋的な陰影を取り入れた人物図や水中表現には、稲嶺の真に迫ろうとする努力の痕跡がうかがわれ、その迫真的かつ奇妙な描写は、現代のわたしたちの眼にも大変新鮮に映ります。

本展では、稲嶺の名品とともに、二〇二六年度に御寄贈いただき修復を終えたばかりの和歌山県興国寺伝来の障壁画二十八面を、書院の空間を再現して初公開いたします。書を読むのを好み、作画にあたっては部屋を閉め切り香を焚いて臨んだという逸話や、唐の詩人・王維の漢詩から「深林人不知明月来相照」の一節を取った遊印からもうかがえるように、文人氣質であった稲嶺。彼の作品に通底する、燻し銀のような奥深い魅力を、どうぞごゆっくりとご堪能ください。



土方稲嶺 荒磯図屏風(個人蔵)



土方稲嶺 群鶴図(府中市美術館蔵)



伊藤若冲 旭日松鶴図(浦水軒記念文化振興財団蔵)



興国寺(和歌山県) 外観



関連プログラム

- 特別講演会I「稲嶺のいた京都」
10月13日(土)14時~15時30分 講師=狩野博幸氏(美術史家)/聴講無料/会場=当館講堂
- 特別講演会II「南蘋派からみた土方稲嶺」
10月20日(土)14時~15時30分 講師=安村敏信氏(北斎館館長)/聴講無料/会場=当館講堂
- スペシャルギャラリートーク「稲嶺の魅力語る!」
解説=金子信久氏(府中美術館学芸員)、進行=山下真由美(当館学芸員)
10月27日(土)14時~15時/要観覧料/会場=展示室
- ギャラリートーク ~担当学芸員による展示解説~
10月6日(土)「はじめての“とうれい”-大人編-」14時~15時 要観覧料
11月3日(土)「はじめての“とうれい”-子ども編-」14時~15時 対象=高校生以下、要観覧料
- 体験型ミニレクチャー「掛軸を巻いてみよう!」スライド解説と体験を交えた初心者向けレクチャー
11月10日(土) 11:00~、14:00~(約30分/各回定員10名、要申込、無料) 10月26日(金)より受付※電話のみ



土方稲嶺 猛虎図屏風(個人蔵/部分)

お客様の満足のその先へ...

MORRIX
株式会社モリックスジャパン
TEL 0857-23-3641
本社 鳥取市鹿米町203-6
倉吉店 倉吉市下田中町870 中瀬ビル3F
<http://www.morrix.co.jp/>

引越しは日通
フリーダイヤル ひっこしはにっつう
0120-154022



- ### 交通のご案内
- ◎JR鳥取駅からバスで
●100円バス「くると」(緑コース)で「@仁風閣・県立博物館前」下車すぐ
 - ループバス「くると」(土・日・祝のみ)で「@鳥取城跡」下車すぐ
 - 砂丘、湖山、賀露方面行「西町」下車約400m
 - 市内回り岩倉・中河原方面行「わらべ館前」下車、約600m
 - ◎JR鳥取駅からタクシーで...約10分
 - ◎鳥取空港から...鳥取駅連絡バスで「西町」下車、約400m
 - ◎お車で...鳥取自動車道・鳥取ICより約15分
- ※当館駐車場21台駐車可能(なるべく公共交通機関をご利用ください)

鳥取県立博物館
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM

〒680-0011 鳥取県鳥取市東町2丁目124
TEL 0857-26-8042/FAX 0857-26-8041
<http://www.pref.tottori.lg.jp/museum/>
E-mail:hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp



会期中限定
展示ガイドアプリ
ポケット学芸員